

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：深澤 淳志

事業名	一般国道10号 ^{かごしまきた} 鹿児島北バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 九州地方整備局
起終点	自：鹿児島県鹿児島市吉野町花倉 至：鹿児島県鹿児島市小川町				延長	約4km
事業概要 鹿児島北バイパスは、鹿児島市と霧島市等を結ぶ唯一の幹線道路である国道10号の交通需要に対応した十分な交通容量を確保し、交通渋滞の緩和に大きく貢献するとともに、交通安全性の向上等を目的とした道路である。						
S50年度 事業化		S56年度 都市計画決定		S56年度 用地着手		H4年度 工事着手
全体事業費		事業進捗率		供用済延長		
(海浜ボックス(花倉川))		450億円		18%		1.2km
(海浜ボックス(磯川))		340億円		24%		1.2km
計画交通量		37,500~44,500台/日				
費用対効果 分析結果	B/C	総費用 (残事業)/(事業全体)		総便益 (残事業)/(事業全体)		基準年
(海浜ボックス(花倉川))	(事業全体) 2.6 (残事業) 1.5	252 / 387 億円 事業費：246/379億円 維持管理費：6.3/8.2億円		375 / 1,014 億円 走行時間短縮便益：373/908億円 走行費用減少便益：8.2/98億円 交通事故減少便益：-6.9/8.1億円		平成20年
(海浜ボックス(磯川))	(事業全体) 3.2 (残事業) 2.1	178 / 313 億円 事業費：172/305億円 維持管理費：6.3/8.2億円		375 / 1,014 億円 走行時間短縮便益：373/908億円 走行費用減少便益：8.2/98億円 交通事故減少便益：-6.9/8.1億円		平成20年
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 (海浜ボックス(花倉川)) 【交通量±10%】1.3~1.6 【事業費±10%】1.4~1.6 【事業期間±20%】1.4~1.6 (海浜ボックス(磯川)) 【交通量±10%】1.9~2.3 【事業費±10%】1.9~2.3 【事業期間±20%】1.9~2.3						
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善） ・救急医療活動の支援（三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる） ・観光の支援（主要な観光地へのアクセス向上が見込まれる） 他14項目に該当						
関係する地方公共団体等の意見 ・国道10号は、地域交流の促進、交通混雑の緩和等に重要な役割を果たすことが期待されており、鹿児島県の鹿児島県開発促進協議会等より早期整備の要望を受けている。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・鹿児島都市圏周辺における南北の交通需要は年々高まってきており、国道10号は混雑度が高く、依然として交通渋滞が著しい状況にある。						
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・平成19年度末までに終点側の1.2kmを供用しており、約3kmの残区間は、PIで提言を受けた「海浜ボックスルート」について構造・施工性・将来管理等の技術的検討を行った結果、施工の難易度等の課題を解決する必要がある。						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ・技術的検討結果を踏まえた課題解決に向けて、比較ルートも含めて最適ルートの検討を行う。						
施設の構造や工法の変更等 ・新技術・新工法の積極的活用、建設副産物対策により、着実なコスト削減を図る。						
対応方針		事業継続				
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。						
事業概要図 						

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。